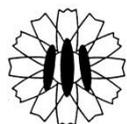


校名： 東京学芸大学附属大泉小学校

所在地：〒178-0063 東京都練馬区東大泉5丁目22-1
電話番号：03-5905-0200

記載日： 2016年 5月10日 記載者： 細井 宏一 記載者役職： 副校長



国際教育・日本語教育のフロントランナー！

～ 小学校からの一貫したグローバル人材の育成 ～

国際バカロレア (IB) PYP の教育理念を取り入れた新しい小学校教育課程の開発

「国際教育の先進的取組～“我が国初”の小学校」(国立)

- ・ユネスコスクール (S41～：当時1初研究協力校)
- ・帰国子女教育学級 (日本語教育) 特設校 (S44年～、現在は国際学級)
- ・国際バカロレア (IB) PYP 検討校 (H26)

「為すことで学ぶ」教育

創立時より、体験教育、実学・労作教育を重視。

- ・特別活動と道徳を融合した「心の学習」カリキュラム 豊富な学校行事
- ・異学年縦割り集団 (生活団活動) の充実・一人一鉢菊作り
- ・「総合的な学習」「自己学習力」の研究開発校 カリキュラム開発の研究校



創立78周年
“菊の園”

校風・特色

創立時より、体験教育、実学・労作教育を重視した教育活動を展開。

S41年より、国際教育・帰国子女教育 (日本語教育) の研究にも先進的に取り組んでいます。

- <教育目標>
- ① 自ら学び、自ら考え、ねばり強く取り組む子ども
 - ② 支え合い 共に生きる子ども
 - ③ たくましく 清い心の子ども

<本校に伝わる言葉>

- ①きくの園の子どもです。ねばり強くがんばります。ほねみおします。動きます。
- ②日本をになう子どもです。強い体をきたえます。はげましあって進みます。
- ③世界に伸びる子どもです。のぞみを高くかけます。ひろい心でまなびます。

骨太の国際人を
育成する



本校は、東京学芸大学の附属学校として「教育研究」「教育実習」「公教育」「地域貢献」の4つの使命を有し、特に本学の大泉地区は「国際学校構想」を掲げた改革を推進しています。

附属大泉小学校では、体験学習・問題解決学習を通して、基礎的な知識技能の習得と共に思考力・判断力・表現力といった確かな学力を基礎としてはぐくみ、その上で、コミュニケーション力や異文化間対応力、プ

レゼンテーション力、広い視野、世界への興味関心、外国語を学ぼうとする姿勢、日本の代表的な文化の理解・親しみなど、グローバル社会に対応する力を育成します。更に、人格形成の基盤として、「人と関わる有用感」「自己肯定感」「たくましさ、粘り強さ、積極性、行動力」「思いやり」協調性、秩序、感謝の気持ち、責任感等の豊かな心と健やかな体をはぐくむこともバランス良く育成し、将来、グローバル社会の中で、信頼され活躍していくことのできる**骨太な国際人の育成**をめざしています。

卒業生の活躍状況

多方面で活躍している卒業生がいます。卒業生の組織（泉友会：せんゆうかい）があり、その会が情報を管理し、毎年更新しているようです。本校では、卒業生の方を招いて「先輩からの話」という催しを、毎年行っていますが、近年では、パイロット、伝統工芸伝承者、医者、アナウンサー、イベントのチーフプロデューサー、大学教授・博士（地震学）などの方々が、児童に向けた講演をしていただきました。

勤務経験者・教諭の後の活躍状況

教育関係を中心として、各方面でご活躍されています。本校勤務経験者には、毎年お便りを出して、その後の所属や勤務のご様子などをお知らせいただいております。情報は学校である程度は管理しています。

特色ある教育活動の取組、先導的取組

①盛んな学校行事・宿泊行事

- ・毎年開催する「運動会」「展覧会」「音楽会」「きくまつり」
- ・全校遠足の年2回実施（5月「和楽会」、11月「全校遠足」）
- ・合計13泊18日の宿泊行事（4～6年移動教室、5・6年臨海学校）
- ・遠泳に挑戦、臨海学校（5・6年）40～60分の時間遠泳
- ・夢の紙風船あげ（全校・きくまつり）



②体験的学び・労作教育

- ・一人一鉢ずつ育てる菊作り 団で育てる畑活動
- ・移動教室現地での本物に触れるフリータイム学習（3～6年）
- ・わらじ作りと箱根旧街道ハイク（5年）
自分で作ったわらじを履いて、箱根旧街道を歩き、杉並木で、「箱根八里」を合唱します。
- ・磯採集（4年） 海の生き物に触れあいます。



③特色ある授業

～文部科学省研究開発学校指定（H13～16）

i) 総合学習モデル「探究活動」「交流活動」「表現活動」で構成

- ・探究力・プレゼンテーション力を育てる「フリータイム学習」（3年生から6年生まで、毎年積み上げて学習しています。）
- ・東京韓国学校との交流学习
- ・総合表現「オペレッタ」…世界に一つだけのオリジナル創作 全員が主役！
台本、道具、照明・効果音、オーケストラ、作詞・作曲等を児童が自作・自演



ii) 英語学習（1年から6年生まで、週1時間）

～小学校英語の先進的取組 H14 から～

- ・Input を重視し、自然な Output を促す英語学習

iii) はげみ学習（1単位 25分間授業を生活時程に組み込む）



④学力観「3つの知（内容知、方法知、自分知）」

本校は総合学習の開発研究に長年取り組み、教科と総合学習の関連から、「3つの知」という考え方で学力をとらえて授業評価していました。次期学習指導要領の資質能力の観点として3つ挙げられていますが、これとほぼ合致します。この研究成果も今後役立てるものと考えています。

内容知…何を学ぶか

方法知…いかに学ぶか、学び方を学ぶ

自分知…学びから自分を見直す、生き方を問い直す。学んだことの価値を知る。意欲。

⑤特別活動と道徳の融合 → 心の学習カリキュラム

本校は特別活動と道徳の融合をはかる心の学習という取り組みを行っています。道徳で養った実践的道徳実践力を、実際の場で発揮できるように特別活動を関連させていこうとするものです。

○生活団（縦割り異学年グループ）による様々な活動

- ・各行事は生活団で活動・毎日の清掃活動（菊作り・畑の活動・菊の子汁づくり・運動会など）
- 生活団は“もうひとつのクラス”として重視

○道徳教材と特別活動との連携・関連の工夫



⑥国際学級の特設・日本語教育研究

本校は我が国で最初に海外帰国子女の特設学級を設けた小学校で、50年近い歴史があります。現在、多くの帰国・外国人児童がきていますが、日本語教育や適応教育は大きな課題です。本校では、そこに応える日本語教育の実践研究を継続して続けています。3～6年生に少人数クラスで特設しています。

- ・個別学習（週6時間「日本語」「漢字」「算数」カリキュラム教材）、グループコミュニケーション学習
- ・日本語教育の、本校オリジナル教材を作成して実施しています。（デジタル化済み）今後更にICT化。

⑦国際バカロレア（IB）のPYP研究 ～異文化間教育・アクティブラーニング～

国際バカロレア（IB）の小学校学齢プログラムであるPYP（Primary Years Program）の検討校です。今後認定校になることも視野に入れていますが、認定になると、大泉地区は小学校から高等学校までの一貫したグローバル人材育成を行える我が国初の地域となります。PYPには国際教育（グローバル人材育成）の視点で柱があります。PYPと学習指導要領とが共存できるのかが大きな課題で、その研究をしています。PYPでは、UOI（Unit of Inquiry：探究学習）といわれる学習があり、教科横断的な学びが重視されています。学習指導要領との整合性と新しい方向性を探る先進的な研究に取り組んでいます。本研究の成果が、未来の学習指導要領改定の参考になるように、エビデンス評価も行っています。

地域における本校の存在

- ・地域（練馬区・西東京市・杉並区・東京都）における 国の拠点校
地域現職学校教員向け研修会開催。練馬区教育会との連携による研究授業・協議会開催。
地域学校の校内研究会への指導、研究内容の地域への還元（発表）
- ・帰国児童・外国人児童の日本語教育の拠点校、日本語適応教育研究校
- ・東京学芸大学国際教育センター、OECD次世代教育推進機構との連携研究機関
- ・教員養成（教育実習生の受入）
- ・一時避難所（地域町会）…地域訓練への協力

附属学校の存在意義 本校の存在意義

附属学校は**我が国の教育をリードしていく役割**があることが存在意義と考えます。2つ意義があります。

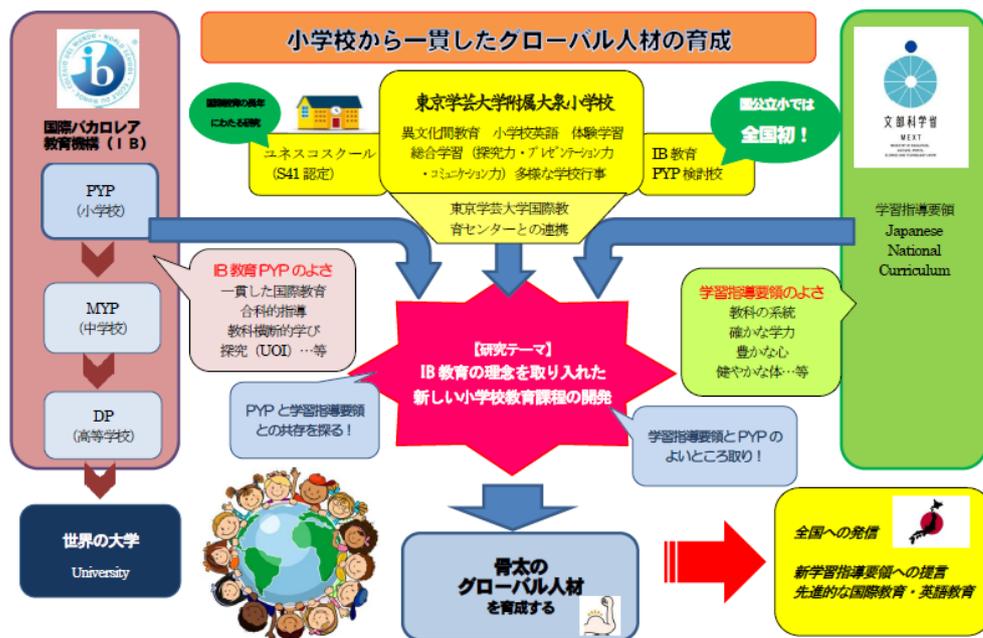
【意義1】 研究機関（先進的研究）

国際教育のフロントランナー

→ 研究発表会の開催（毎年度 1月）

一つは先進的な実践の研究機関であるということです。教育が発達・進展していくためには、どこかで新しい取り組みを実践し研究をする必要があります。公立校では行うことができない先進的なことを、大学等の研究機関とも連携しながら取り組み検証することは、附属の存在価値であると考えます。

本校は、国際教育の先進的研究として、東京学芸大学国際教育センター、OECD 次世代教育推進機構との研究協力しながら、「小学校からの一貫したグローバル人材の育成」をめざすカリキュラム研究に取り組んでいます。今後、グローバル化が進み、小学校からも国際教育をどう展開するか検討するニーズがあると思われ、その先頭に役立つ存在でありたいと考えます。毎年、研究発表会を開催しています。また、日本語教育にも継続的・先進的に取り組んでいます。



毎年、研究発表会を開催しています。また、日本語教育にも継続的・先進的に取り組んでいます。

【意義2】 教員研修・教員養成機関

地域学校への研究・研修・教員養成への貢献

→ 練馬区小学校教育研究会と共同で研究授業を実施。

2つ目は、研修機関・教員養成機関であるということです。学習指導要領の考え方、最先端の教育情報入手し、地域学校に広める、また現場の教育力向上に役立つような機能をもつことです。附属学校の授業の姿で、教員の授業技術向上、研究体制の整備、及び研究への熱意のようなものを発信することができれば、地域に役立つものと考えます。

本校では、本年度も練馬区教育会と連携し、本校会場に教科研究授業を行ったり、教員向けに小学校英語学習研修会、体育研修会、4附属合同での算数授業研修会を実施しています。また、講師として附属の教員が派遣することもあります。また、教員養成として毎年170名程度の学生（実習生）を受け入れています。

最後に…

我が国の教育発展・向上のため、リードする立場である附属学校から整備するという考え方に立脚した教育行政運営を期待します。エリート教育ではなく、各地域に附属校があるので「モデル校・拠点校」として活用し、研究・研修機能を活かして教育向上に繋げることが有効と考えます。それには附属に研究・研修を推進する力が必要です。附属校には教育環境も整い、その教員は尊敬され憧れとなる存在で、指導できる優秀な教員が集った学校でなくてはなりません。しかし現実には制度や人的・物的・経済的環境が整っておらず、十分に機能できていない現状があります。「附属から日本の教育を向上させる」という方向性を期待します。